医療的ケアが必要なお子さんと家族のための小学校就学ハンドブック

～ 札幌市版 ～

別冊_事例編

2026年度版

Full Edition 2026.05.19
NotebookLM

はじめに

本冊子の目的

- **不安の軽減**：小学校入学に向けた準備のサポート
- **協働ツール**：ご家族と支援者が共に考えるための羅針盤

背景

- **医療的ケア児支援法**（2021年9月）：健やかな成長と、家族が安心して働き・育てられる社会の実現
- **教育の転換期**：2022年の国連勧告を受け、教育環境は大きく変化・多様化へ

本資料の位置付け

- **情報提供と実例**：固定のガイドラインではなく「リアルな選択肢」の提示
- **自分らしい選択**：多様性が拡がる今、最適な道を見つけるための手がかり（※PDF形式で随時更新）

NotebookLM

地域の学校

① 嶋えながちゃん　人工呼吸器　喀痰吸引　経鼻経管栄養

② 北きつねちゃん　常時酸素　自立

③ 蝦夷ももんがちゃん　インスリン　血糖値測定

④ 那奈かまどちゃん　気管切開　喀痰吸引

⑤ 阿寒まりもさん　経管栄養　人工呼吸器

⑥ 谷地ぽうずさん　気管切開　走れる医療的ケア児

⑦ 岬らっこさん　1型糖尿病　血糖管理

特別支援学校

① 黒井ひぐまちゃん　人工呼吸器　持続吸引　胃ろう

② 名木うさぎちゃん　人工呼吸器　カフアシスト　胃ろう

③ 浜なすちゃん　気管切開　経管栄養　聴覚・視覚支援

④ 江渡ぴりかちゃん　人工呼吸器　胃ろう

⑤ 島ふくろうちゃん　喀痰吸引　胃ろう

⑥ 尾白わしちゃん　酸素吸入　胃ろう　喀痰吸引

NotebookLM

地域の学校①
嶋えながちゃん

① プロフィールとケア体制

- 小学1年生 / 地域の特別支援学級（知的・自閉症支援学級）
- ケア：24時間人工呼吸器、喀痰吸引、経鼻経管栄養、おむつ交換など全介助。
- 体制：看護師4名（シフト制）、介助アシスタント1名が同じ教室で待機しケアを担当。

② 就学までの道のり

支援学級選択：
少人数体制を考慮

入学3年前：教頭や教育センターへ相談開始

入学直前：関係者約20名での支援カンファレンスを実施

③ 学校での過ごし方

- 基本はバギーで授業を受け、右向き防止のため1日1回は布団に下りる。
- おむつ交換は別室。給食はみんなと同じ教室で経鼻から栄養剤を注入。
- 通常学級との交流もあり、運動会や音楽発表会などの行事にも参加。

④ 支える人々や仕組み

- 看護師と介助アシスタント（ケア全般・おむつ交換）。
- 担任の先生（授業中のバギー調整や筆記の手伝い）。
- 児童会館（夏・冬休み中のケアを担当）。

⑤ 課題と今後

- □ ケアが休み時間内に終わらず、授業開始が遅れることがある。
- □ 遠足のバスに昇降機がなく、現地集合で母親の付き添いが必要だった。
- □ 今後はプール授業の支援方法検討や、給食の味見イベントを企画中。

NotebookLM

地域の学校②
北きつねちゃん

① プロフィールとケア体制

- 小学2年生 / 地域特別支援学級（知的障害）
- ケア：常時酸素（0.75L）。日常生活動作は自立。
- 体制：**専門職**（看護師・介助アシスタント）の**配置なし**

② 就学までの道のり

就学前：感染症リスクで通園ストップ経験あり

→ 就学前相談で支援級選択

→ 入学直前：酸素24時間化・濃縮機設置

③ 学校での過ごし方

- 小1の12月より「液体酸素の子機」をリュックで背負うスタイルに変更し自由度アップ（縄跳びにもトライ）。
- 服薬は自宅で調整、学校ではSPO2を適宜測定。

④ 支える人々や仕組み

- 教頭先生（機器設置許可）、担任の先生（トイレ時のカメラ対応）。
- 保護者作成の資料に基づき、学校側が理解・対応。

⑤ 課題と今後

- □ 機器が目立ち他児から尋ねられる
- □ 将来的に本人が自分の口で病状や機器を説明できることが目標

NotebookLM

地域の学校③
蝦夷ももんがちゃん

① プロフィールとケア体制

- 小学2年生 / 地域特別支援学級
- ケア：1型糖尿病（インスリンポンプ、リブレによる血糖値測定）。自立。
- 体制：看護師1名（別児と兼任で別室待機）

② 就学までの道のり

幼稚園通園（看護師配置なし）
一日4-5回保護者が通う

→

就学前相談で
支援級選択

- 年中時に患者会に参加し、先輩の話を聞いた
- 地域の小学校の教頭に相談

→

学校の先生方にも病態やケアの説明実施

③ 学校での過ごし方

- 食前等に別室（他の子がいない環境）で血糖測定・インスリン投与。
- 給食は、先生が実食量を計り、看護師が糖質計算しインスリン量調整。

④ 支える人々や仕組み

- 看護師（医療的ケア全般）、担任（給食の計量）、放課後等デイ（血糖確認）。
- 保護者（毎日のグラフ確認、受診調整）。

⑤ 課題と今後

- □ ポンプ外れ時の再装着や放デイに看護師不在のため保護者の駆けつけが必要
- □ 将来は本人が体調を考えて看護師に相談する形での自立を目指す

NotebookLM

地域の学校④
那奈かまどちゃん

① プロフィールとケア体制

- 小学6年生 / 通常の学級
- ケア: 吸入、気管孔（カニューレフリー）。自立。
- 体制: 看護師が別室待機（8:20〜15:30）。介助アシスタントなし。

② 就学までの道のり

幼稚園の先生から小学校の先生へ引継ぎ → 学校と保護者との話し合い → 入学式にて父から他の児童や保護者に説明

③ 学校での過ごし方

- 低学年時は保護者が隣室待機（付き添い）。
- 5年生から看護師毎日配置により付き添い不要へ。
- ケア時は本人が待機室へ移動。宿泊行事は保護者同行。

④ 支える人々や仕組み

- 看護師（別室待機・ケア担当）、担任（同級生への細かな説明）。
- 低学年時の保護者の付き添いやPTA役員経験が、先生方との密な連携の基盤に。

⑤ 課題と今後

- □ 呼吸音について周囲から言われることに本人がどう対応するか
- □ 中学生から医療的ケアの自立を目指す

NotebookLM

地域の学校⑤
阿寒まりもさん

① プロフィールとケア体制

- 小学1年生 / 特別支援学級
- ケア：経管栄養、人工呼吸器（ネーザルハイフロー24h）。
- 体制：看護師1名（別室待機あり）、介助アシスタントなし。日常生活一部介助。

② 就学までの道のり

【年中〜年長】
ちえりあ等で
就学相談

→

【年長8月】
保護者・園長・相談
センター等で合同相談

→

【年長9月】
学校職員が幼稚園見学、知的・情緒クラスに決定

③ 学校での過ごし方

- 保護者と一緒に通学（呼吸器はカートまたはリュック）。
- 授業に制限なし。給食は少量の経口摂取＋経管栄養。
- 下校後は週1回、放課後等デイサービスを利用。

④ 支える人々や仕組み

- 保護者、家族、先生、学校看護師、お友達、地域。
- 放課後等デイサービス。
- 看護師配置事業、保育所等訪問支援事業の活用。

⑤ 課題と今後

- □ 身体に負担がかからない授業環境（机や椅子の高さ）の検討
- □ 給食の経口摂取に向けた取り組み
- □ 医療的ケアの自立（蛇管操作等）と、周囲へ助けを求めるスキルの習得

NotebookLM

地域の学校⑥
谷地ぼうずさん

① プロフィールとケア体制

- 心疾患、術後声帯麻痺。知的障害なし。ADLは自立し走れる状態。
- ケア：気管切開からの吸引（人工呼吸器や酸素は不使用）。全経口摂取。
- 体制：専用配置はないが、看護師の待機場所がある。

② 就学までの道のり

就学年前選択で
看護師の看洗い状態

未就学児：訪問看護を利用し、重心児の通う児童デイに通所

就学1年前：夜中など一人で吸引動作が可能になるが手洗いの徹底は難しい状態

③ 学校での過ごし方

- 保護者と一緒に徒歩で登校。下校の際は放課後等デイを経て学童、その後保護者と帰宅
- 医療的ケアが必要なときに、自分で看護師の待機場所へ行き、見守りのもと実施。
- クラスのお友達と一緒に過ごす。

④ 支える人々や仕組み

- 先生、看護師、地域の人々、学校のお友達。
- 児童館、放課後等デイサービス。
- 家族（日々の送迎やケアのサポート）。

⑤ 課題と今後

- □ 体格が華奢であり、学校の荷物に加えて吸引器などを持ち歩くことが難しい。
- □ 親の勤務とのバランスをとるために、通学支援があると助かる。
- □ 将来的に看護師から卒業していけるよう学校と相談していく。

NotebookLM

地域の学校⑦
岬ラッコさん

① プロフィールとケア体制

- 1型糖尿病の児童。自己注射が可能。
- ケア：目標血糖値の管理と低血糖時の対応。
- 体制：看護師配置はなし。日常ケアは主に担任と養護教諭（保健の先生）が担当。

② 就学までの道のり

就学年前選択で
看護師師配置を希望せず

早い段階で：
看護師配置が
難しいと判明

自立を優先：
あえて看護師配
置を希望せず

入学前：綿密な面
談を重ね低血糖時
の対応手順を決定

③ 学校での過ごし方

- 授業中に低血糖のアラームが鳴った場合は、教室でジュースを飲んで対応。
- 15分経っても改善しなければ、保健室で経過観察を実施。
- 本人は特に不自由なく毎日楽しく学校生活を送り、無遅刻無欠席無早退。

④ 支える人々や仕組み

- 担任の先生、養護教諭（低血糖時の主な対応窓口）。
- （※本事例では看護師・介助アシスタントの配置はなし）。

⑤ 課題と今後

□ 看護師がいないため、低血糖時の対応を担う先生方の負担が大きい。

□ 専任配置ではなくとも、ケアをサポートする人員の加配があれば負担軽減につながる。

NotebookLM

特別支援学校①

訪問学級 黒井ひぐまちゃん

① プロフィールとケア体制

- 真駒内養護学校小学部6年生 訪問学級
- ケア：24時間人工呼吸器、喀痰吸引、経管栄養、おむつ交換など全介助

② 就学までの道のり

年中時
相談室へ相談し特徴を学ぶ

訪問学級を希望
本人の学び・親の仕事等を総合考慮

入学前 年11月
面談を経て入学内定（手続きスムーズ）

③ 授業中の過ごし方

- 先生2名訪問
- 授業中の医療的ケアは保護者が行う。
- 入学式や行事は登校

④ 支える人々や仕組み

- 訪問学級の先生、保護者、放課後等デイなど
- 工作や楽器演奏も楽しんでいる

⑤ 課題と今後

☑ 【利点】本人が楽しんでおり、移動の負担がなく体調不良でも授業を受けられる。

☑ 中学部、高等部もそのまま進学する予定であり、学校便りでイメージしやすい。

NotebookLM

特別支援学校②
名木うさぎちゃん

① プロフィールとケア体制

- 市立札幌北翔支援学校小学部2年生。知的障害なし・ADL全介助。
- ケア：24時間人工呼吸器、喀痰吸引、カフアシスト、胃ろう等。
- 体制：学校に看護師6名（小学部2名）と介護員6名が配置。

② 就学までの道のり

年少時 → 年長時 → 比較検討の結果 →

年少時：
就学相談会や
教育相談に参加

年長時：
北翔支援学校と
訪問教育を見学

比較検討の結果：
北翔支援学校への
就学を決定

③ 学校での過ごし方

- 看護師がカフアシストを使用可能になり、医療的ケアを全て任せられる状態に。
- 学習はスイッチ等を使用。給食はミキサー食を胃ろうから注入（時々味見）。

④ 支える人々や仕組み

- 学校の看護師と介護員（ケア全般を担当）。
- 保護者（入学当初は必要時に学校に呼ばれて対応していた）。

⑤ 課題と今後

- □ 送迎せず、自宅玄関先で看護師へ引き継ぎができるようになることが課題。
- □ プール授業で保護者がバッグバルブマスクを押す必要があり、不在時の受け入れが課題。
- □ 今後も北翔支援学校内での進学を考えている。

NotebookLM

特別支援学校③
浜なすちゃん

① プロフィールとケア体制

- 小学3年生 / 札幌聾学校 重複クラス。ADL部分自立。
- ケア：気管切開吸引、経管栄養、聴覚・視覚支援。
- 体制：看護師が医療的ケアを担当。

② 就学までの道のり

Step 1：【年長】
聾学校の相談室等を利用し準備開始

Step 2：【葛藤】
重複障害のため肢体不自由校校は対象外、通学圏内の制限で難渋

Step 3：【決定】
言語の基礎を重視し、最終的に親の信念で聾学校へ決定

③ 学校での過ごし方

- 登校時は吸引が必要なため母が同乗することもある。
- 痰の吸引、栄養注入は看護師が担当。トイレは複数の先生で対応。
- 体育はSpO2を計測しながら、走ることも含めて挑戦している。

④ 支える人々や仕組み

- 看護師3名に加え、担任、養護教諭、フリーの先生が連携しサポート。
- 入学に際し看護師が増員され、親による医療的ケアの付き添いは不要に。
- 担任と看護師が携帯で連絡を取り合い、細やかな対応を実施。

⑤ 課題と今後

- □ 複数の障害種別で学校選びが難しく、制度の「狭間」を感じた
- □ 中学部は階段があり、移動サポートが必要になる
- □ 高等部への進学は、難聴配慮やサポート体制の面で早期の準備が課題

NotebookLM

特別支援学校④
江渡ぴりかちゃん

① プロフィールとケア体制

- 豊成支援学校小学部6年生。
- ケア：喀痰吸引、胃ろう、酸素、人工呼吸器（体調による）が必要な全介助。
- 体制：看護師4名、介護員6名配置。3名クラスに担任と副担任。

② 就学までの道のり

就学前前年秋 → 見学 → 就学前前年秋 →

幼児教育センターで就学相談

豊成支援学校と真駒内養護学校

少人数で子どもの意志を丁寧に引き出す授業をみて学校を選択

③ 学校での過ごし方

- 体調に問題がなければ、保護者は付き添いなしで帰宅。
- 給食はミキサー食にし、経口分は二次調理、残りを胃ろうから注入。
- 月2回のプールや校外学習・宿泊行事には保護者が付き添う。

④ 支える人々や仕組み

- 学校の看護師と介護員（日常的なケアや介助を担当）。
- 担任の先生（ケアを行えない場面では保護者が付き添ってサポート）。

⑤ 課題と今後

☑ 男子児童が多く、おむつ替えなどが異性介助になることが多い点が課題。

☑ 学校に高等部がないため、他校への進学を検討中だが、距離などの問題で悩んでいる。

NotebookLM

特別支援学校⑤
島ふくろうちゃん

① プロフィールとケア体制

- 真駒内養護学校小学部6年生。ADL全介助。
- ケア：喀痰吸引と胃ろうからの経管栄養。
- 体制：1学年あたり担任に加え、学年所属の先生が配置。

② 就学までの道のり

未就学時 → 年長時 → 真駒内を志望 →

未就学時：医療型児童発達支援へ相談

学校見学で子どもたちが楽しむ様子を見る

真駒内を志望：見学時にケアについても相談

③ 学校での過ごし方

- プールや遠足は保護者付き添いなし（遠足は看護師同行）。宿泊夜間のみ保護者付き添い。
- クラス内交流が盛んで、手紙交換や動画鑑賞などを行う。
- 毎朝「からだの時間」があり、PT・ST資格の先生のプログラムで体を動かす。

④ 支える人々や仕組み

- 看護師（胃残チェック）と先生（胃ろう注入）。
- 保護者（入学直後やケア変更時、宿泊夜間にサポート）。友達（お手伝いをしてくれる）。

⑤ 課題と今後

☑ 通学の送迎に毎日往復約2時間かかっており、スクールバスの利用が望まれている。
☑ 発作等で学校を休む日を本人が非常に残念がっている。
☑ 高校卒業まで真駒内で進学希望。卒業後の進路に向けた準備も進行中。

NotebookLM

特別支援学校⑥
尾白わしちゃん

① プロフィールとケア体制

- 中学2年生 / 手稲養護学校（通学生）
- ケア：常時酸素吸入、胃ろうからの経管栄養と服薬、喀痰吸引が必要。日常生活動作は全介助。
- 体制：通学生の医療的ケアを行う看護師が学校に配置。クラスには介護員1名。

② 就学までの道のり

就学前

入学前の具体的な準備や相談に関する特記事項はなし

入学後

中学部から手稲養護学校へ通学を開始

③ 学校での過ごし方

- 経管栄養と喀痰吸引は、看護師のほかに研修を受けた担任・副担任も実施可能。
- おむつ交換は同性の先生または介護員が担当。
- 2021年より酸素ボンベを学校に置いて管理できる体制に移行。
- プール学習は医師の指導書に基づき、先生が抱っこし母親が酸素ボンベを担いで協力対応。
- 宿泊研修は看護師同行がないため (当時)、保護者が同行して参加。

④ 支える人々や仕組み

- 担任、副担任、看護師、介護員が密に連携し、日常の医療的ケアや介助を分担。
- 服薬時は、病院発行の「服用指示書」（定時薬・緊急薬）を学校に提出する仕組みを活用。

⑤ 課題と今後

- □ 先生方が研修を受けていても、看護師不在の日（当時）はケアができず保護者の付き添いが必須。
- □ 宿泊研修等で看護師が同行しない場合の、保護者の同行負担やレスパイト事業活用の調整。

NotebookLM

おわりに

過去から現在へ：広がる就学の選択肢

- かつては「特別支援学校が当たり前」「看護師不在で毎日親が付き添う」状況でした。
- 法改正（2016年児童福祉法、2021年支援法）により、子どもと家族の選択肢は大幅に拡大しました。

本冊子の思い：なぜこれを作ったのか

- 選択肢が増えた分、「どこを選べばよいか」が見えにくくなっています。
- 医療的ケア指導医として現場を回る中で、「情報の集約と実例の共有」が不可欠だと感じ作成に至りました。

未来へ向けて：私たちが目指す場所

- 教育・医療・福祉の現場は日々尽力し、環境はこれからも確実に改善していきます。
- 究極の目標は、障害やケアの有無によらず「一人一人の子どもの固有の可能性を最大限に引き出す」教育体制が当たり前になることです。

本誌に対するご意見はこちらからお願いします→

※この冊子をよりよいものにしていくために、ぜひご意見をお寄せください。

NotebookLM